



櫛の梢から



大槌高校だより

大槌高校の学校生活や日々の様子を町民の皆さんにお伝えします！



大槌高校HPやnoteでも学校生活の様子を発信しています！

令和5年度「こころの温もり」作文 入賞おめでとう！

毎年行われている「住みよい町づくり作文『こころの温もり』」の各部の入賞者が決まりました。各学園や大槌高校から応募された選りすぐりのたくさんの作品から、入賞された作文はどれも素晴らしいものでした。本来であればおしゃっちを会場として、保護者をはじめ、多くの来賓の人たちにご臨席していただいた中で、入賞した児童生徒の皆さんに賞状を渡す予定でした。しかし、町内のインフルエンザなどの感染状況から、やむなく中止となりました。

令和5年12月に入ってから、各学園に松橋教育長が直接訪問し、入賞した児童生徒に表彰状を渡す機会を作りました。松橋教育長から「来年以降もぜひ挑戦し、また賞状をもらってくださいね」との言葉に、受賞者の皆さんも「はい！」と大きく返事をし、うなづく様子が見られました。受賞者は以下のとおりです。本当におめでとうございました。



小学生低学年の部

- 最優秀賞 小國 惺愛 さん (大槌学園1年)
- 優秀賞 三浦 桃歌 さん (吉里吉里学園1年)
- 佳作 大澤 咲来 さん (大槌学園2年)

小学生中学年の部

- 最優秀賞 三浦 桃花 さん (大槌学園3年)
- 優秀賞 関谷 蒼羽 さん (吉里吉里学園3年)
- 佳作 植田 真子 さん (吉里吉里学園4年)

小学生高学年の部

- 最優秀賞 上野 元太 さん (大槌学園5年)
- 優秀賞 内金崎 啓太 さん (大槌学園6年)
- 佳作 菊池 美桜 さん (大槌学園5年)
- 佳作 村上 絢 さん (大槌学園6年)

中学生の部

- 最優秀賞 関谷 省吾 さん (吉里吉里学園9年)
- 優秀賞 芳賀 みく さん (吉里吉里学園7年)
- 佳作 渡邊 舞 さん (大槌学園8年)

高校生の部

- 最優秀賞 林 佳吾 さん (大槌高校1年)
- 優秀賞 植田 弥桜 さん (大槌高校1年)
- 佳作 藤原菜緒華 さん (大槌高校1年)

受賞作文集を後日、受賞者をはじめ関係機関に配布する予定ですので、ぜひ素敵な作文の数々をご覧ください。

ピザ作り体験 ～けやき体験学習～

令和5年7月に牛舎見学を行った『けやき体験学習』の第2弾が、12月5日(火)にNPO法人吉里吉里国で行われました。今回の目玉は「ピザづくり」ということで、青空の下おいしいピザが完成するように、それぞれトッピングに工夫する様子が見られました。当日は教育長も参加し、窯の火加減を担当しました。ピザづくりの後は、CSコーディネーターである吉里吉里国理事長の松永いづみさんが、テーマパークのショー出演者として働いていたこと、その後JICA海外青年協力隊としてアフリカで生活をしたことで価値観が大きく変わったことなど、興味深いお話をたくさんしてくださいました。参加した生徒さんも、普段経験できないことや聞けない話に、刺激を受けた1日になったようでした。



120人がおしゃっちに集結！



令和5年11月22日(水)大槌町文化交流センターおしゃっちで「高校生と語る これからの大槌高校を考える会」を実施しました。地域の皆さん、教員、生徒あわせて120名が集まりました。

大槌高校2年 菊池康介さんと兼澤美海さんの生徒2人と、菊池竜太教諭が「地域と高校生で何ができるのか」というテーマでプレゼンテーション発表を行い、その後「これからの大槌高校生が地域に飛び込んでいくためにどうしたらよいか」について、熟議をしました。

生徒からは、「こんなに自分たちのことを考えてくださる大人がいるということに気付きました」「自分もこれから大槌町を盛り上げていく存在になっていきたい」などと感想がありました。

ここでいただいたアイデアやご意見をもとに、これからの大槌高校を進化させていきたいと思えます。お忙しい中、足を運んでいただきました地域の皆さん、本当にありがとうございました。



輝く大高生

近年、マイクロプラスチックも含め、海洋プラスチックごみが問題になっています。

この問題の解決のためには、どこにどんな種類のプラスチックがどのくらいあるかの情報がとても重要になってきます。また、漂着物にはプラスチックだけでなく、さまざまな物が含まれており、それらの情報も重要となります。

大槌高校はま研究会の漂着物班の生徒は、調査データの少ない三陸沿岸の漂着物の特徴を明らかにすることを目的とした岩手県船越湾における漂着物の特徴、2年間のモニタリング調査を東京大学大気海洋研究所の皆さんとともに行ってきました。その結果について、令和5年11月18日(土)におしゃっちで行われた第22回漂着物学会で発表しました。

ポスターセッション発表をした、大槌高校3年小國優菜さんにその日の感想を聞いてみました。



自分たちが学会で発表をさせていただくという本当に貴重な経験をすることができました。地域によって漂着物が異なるので、大槌町の漂着物を分類し、調査した結果を県外の人たちに伝えられたことが嬉しかったです。漂着物の言語表記から、どこから大槌にたどり着いたのかについて考えたことについても話すことができました。